

キュウリグサ (胡瓜草)

名前の意味：葉をもむとキュウリのような青臭い匂いがする草の意味。
味。

分類：双子葉類、ムラサキ科、キュウリグサ属
(ムラサキ科の栽培植物：ワスレナグサ)

好きな場所：日当たりのよい道ばた、庭

分布：北海道、本州、四国、九州

原産地：昔から日本に生えていた (自生)

特徴：地面を円くおおうスプーン形の葉、小さい空色の花、先が巻く花序 (花の集まり)。葉をもむとキュウリのような匂いがする。

種子の運ばれかた：そのまま地面に落ちる

花卉の数：5裂、合弁 (花びらがつながったまま落ちる)

花の時期：3—5月

食べ方：食べられるけれどもおいしくない

見分け方：ワスレナグサとは、キュウリグサのほうが花がとても小さいこと、葉がさじ形で葉柄が長いことで区別できる。

見つけやすさ ★

見分けやすさ ★★

総合難易度 ★★

(★が多いほど量が少なく、見分けにくく、難易度が高い)